

# 地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

## CONTENTS

■国越えて寄り添う気持ちを	1
■「今日の余震を感じたかい?」—震災2ヵ月後の不安と希望	2
■ネパール大地震被災者支援報告	3
■「幸せ分かち合いムーブメント」続けます	3
■SAGUN副代表エソダ・シュレスタさん招聘プログラム	3
■ゆっくりでも学ぶことは多いはず	4
■カンボジア訪問	4.5
■非戦の声を!!—「戦後70年」私たちの望むこと	6
■「もったいない」を掘り起こそう	6
■気仙沼だより その10 スポーツで子ども支援	7
■新理事登場	7
■活動日誌(6月~8月抜粋)	7
■2016年版「地球の木」カレンダーができました!	8
■認定NPO法人格を継続して取得しました	8
■イベント情報	8

## 国越えて寄り添う気持ちを ～地震後のネパールを訪ねて～

### 援助が地域を壊す

「援助は地域を壊すことがある」——私がこれまで経験してきた災害支援の現場でしばしば見たり聞いたりしてきた苦い思い出です。私は前職でいくつかの自然災害の緊急・復興支援に携わってきました。どの災害でも共通していることは、災害は、人々の生活をいっぺんに変え、生存が脅かされる状況に被災者を追い込んでしまうことです。そこに海外から駆け付けた援助機関が、衣食住の不足を補うべく緊急支援を始めます。様々な機関が違った物を異なる方法で配ることによって、地域の中で予期せぬ不公平感が生まれ、それまで仲の良かった地域住民の関係に小さな亀裂を生じさせます。そして、生活再建までの長い道のりの中で積み重なるストレスが、小さな亀裂を徐々に大きくしてしまいます。

### 「寄り添う」SAGUN

平常時から地域のより良い発展のために尽力する開発NGOが行う緊急支援は、地域を壊さないための作法を持っています。それは「寄り添う」という姿勢です。



カルパチャーク村で女性グループに話を聞く(右側が筆者)

くり出せません。緊急期に必要な物を援助することも大切なことです。私にはサルバジットさんが現場を訪れるこのものが、「私たちは決して見捨てない。放っておきはしない」というメッセージを住民に伝えているように見えました。一方的な支援ではなく、相手を思いやりながら活動をしていれば「地域を壊す」ということも起きなくなります。

### 「ニーズ」と「思いやり」

援助を語るときによく使われる「ニーズ」とはなんでしょうか。生存を維持するために必要なことは衣食住だけでしょうか。私は、ここに「思いやり」を加えたいと思います。震災で負った悲しさや辛い気持ちを誰とどう分かち合うのか。目の前の不足を満たすことさることながら、大事なことは苦しいときも楽しいときも同じ方向を向いて共に歩んでいくこと。それが「寄り添う」ということだと思います。

### 「分かち合い運動」今後も

この「寄り添う」気持ちは国境を越えることもできます。思い出してみてください。東日本大震災の時、遠くネパールから応援の気持ちを届けてくれたカブレ郡の人たちがいました。次は私たちがその想いをネパールに届ける番だと思います。それが、地球の木が目指す「分かち合い運動」なのではないかと、今回私はネパールを訪れて感じました。今後、ネパールでも再建までには非常に長い時間がかかることでしょう。それでもSAGUNのスタッフは今日も住民と声を掛けあいながら、一歩一歩その歩みを前に進めているのが私の目には浮かびます。

(事務局スタッフ 下田寛典)

# 「今日の余震を感じたかい？」—震災2ヵ月後の不安と希望

## 屋外での寝泊まりがつづく

ネパール大地震から2ヵ月が経過した6月29日、初めてネパールを訪問しました。日本にいたときには震災で倒壊した様子をテレビや新聞等で見ていたので、カトマンズ市内も倒壊した建物とその瓦礫が山積みなのではないかと思っていたが、一見したところ倒壊した建物は少数で、市民生活は概ね落ち着きを取り戻しているように見えました。しかし、多くの市民が夜間は屋外にあるテント（仮設住宅）で寝泊まりをしている、という話を聞きました。倒壊こそ免れたものの、建物には大小の損傷が多いのでしょう。夜間、屋内に留まるのは不安なのだと言います。

## 「震災の記憶」を笑いと共に

地球の木が活動するカブレ郡はカトマンズ市内から車で2時間ほど。山の斜面に沿っていろは坂のような道を登ることさらに1時間、カルパチョーク村が見えてきます。ここでは震災当時の話を女性グループから聞くことができました。「地震が起きたとき、家の中にいたんだけど、すぐに外に飛び出したの！地面が揺れていてすごく怖くて、近くにあった電信柱にしがみついちゃった！」と、身振り手振りを交えて話す女性たちはみな笑いながら震災当時のことを語ってくれました。怖かった思い出を心に閉じ込めておくのではなくて、笑いを交えることで、少しでも客観的な事実に置き換えて外に出そうとしているように見えました。



震災当時のことを身振り手振りで教えてくれた

## 山の民の知恵と生きる力

さて、カルパチョーク村の家々を回ってみると、やはりほとんどのすべての家が何らかの損傷を受けているようでした。住民はやはり屋外で寝泊まりをしていて、元の家は、トウモロコシを階下に下ろしてすぐに取り出せるようにしていたり、家畜の小屋として使われたりしています。瓦礫の中から使える木材を取り出して、支援物資の防水シートと組み合わせて自作のテントをこしらえたり、煉瓦を組み合わせて即席のかまどで煮炊きをしていたりと、不安定な生活の中にも随所に工夫の跡が見て取れました。自然と共に生きてきた山の民ならではの知恵と生きる力を見た気がします。



教員と地域住民で一気呵成につくった仮設の教室

## 生徒に押し寄せるストレス

翌日、私たちはマンガルタール村にある高校を訪問しました。ここは、奨学生支援や図書室の支援を地球の木が行ってきた高校です。校舎には亀裂が入るなどして今は使用不可となっており、生徒はみな校庭につくった仮設の教室で勉強をしています。この教室も教員と地域住民が力を合わせて「一日も早く生徒を学校へ！」を掛け声に作り上げたそうです。私たちはその中の1つのクラスにお邪魔しました。トタン板で作られた教室は、日中はかなり暑くなります。隣のクラスの声が漏れ聞こえてきたり、また、これから雨季を迎えるとトタン板をたたく雨音で、授業に集中できる環境とは言えません。授業に集中できない理由は、仮設の教室だからという理由ばかりではないようです。クラスの中には、授業中居眠りをしたり、震災以降言葉を発することができない生徒がいました。そうした生徒のことを先生は、「慣れない屋外でのテント生活、いつくるかも分からぬ次なる余震への不安、そうしたものが合わさり大きなストレスとなって生徒の心に重くのしかかっています」と私に説明してくれました。

## 困ったときはお互い様を希望に

カトマンズに戻った日、この旅で初めての余震を私も感じました。日本であれば「それほど心配することないな」と思われるほどの揺れでしたが、過敏になっているネパールの人たちはこれよりも小さな揺れさえも感じ取ってしまうのでしょうか。この旅の道中、行き交う人の会話には常に「今日の余震を感じたかい？」というものがありました。見た目には緊急期を脱したかに見えるネパールも、人々の心の中には次の地震におびえる不安がつきまとっています。と同時に、大地震当時のことを笑ってみせた女性や新たな暮らしづくりに励む住民、学校再開に燃える先生の姿など、ここぞという時に発揮される地力を秘めた人たちもたくさんいます。困難な状況はすぐにはなくなりませんが、生きる力を持つ人々の存在、そして暮らしの中で協力することが当たり前という文化があることに、私はこの先の希望を見ることができました。（事務局スタッフ 下田寛典）

# ネパール大地震被災者支援報告

たくさんの皆さまから「ネパール大地震被災者支援」へのご寄付をいただきました。8月25日現在合計額が4,918,521円(355件)になりました。心から感謝申し上げます。5月7日に第1次支援金として500,000円を、そして7月16日には、第2次支援として3,745,000円をSAGUNに送金しました。

第1次支援では、マンガルタール村にテントなどに使う防水シートや医薬品を提供しました。第2次支援は、現地視察の結果、最も必要とされていることとして、マンガルタール村とカルパチヨーク村の生活が困難な家庭200世帯に仮設シェルターの資材(トタン板)を提供します。支援額は1世帯あたり15,000ネパールルピー(約18,000円)と担当スタッフの手数料です。これに政府から支給される15,000ルピーを加えると、家族5,6人の寝る所、炊事、食料の保管を含む広さのものを作ることができ、9月まで続く雨季の間安心して過ごすことができます。



自分で購入したトタン板以外はあるもので建てた仮設住宅

## 「幸せ分かち合いムーブメント」続けます

現地訪問で、地震後の通常プログラムの継続を確認することができました。村の人たちは、崩れたり、ヒビが入った家のことで、今後の復興のことで忙しいため、基本プログラムを中心に行うことになりました。できるだけ普段の活動をすることが復興への第一歩となることと考えています。今年度は右のプログラムを行っていきます。

- ◆ 教育支援 奨学金の支給(高校2年、3年計16名)、校外学習、教師トレーニング、作文コンテスト、図書室のフォローアップ、小学校教師サポート(3名)
- ◆ 生活改善支援 貧困家庭への収入創出プログラム、植林プログラム
- ◆ ムーブメント推進 「ロシ・ラハール」(ページ数を増やして2回発行)、ロシ地域ともだちキャンペーン(はがきの交換)、幸せ分かち合いワークショップ

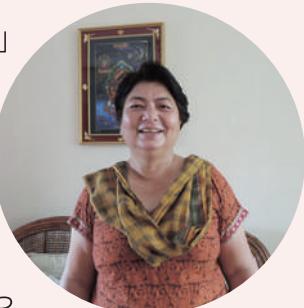
## SAGUN副代表 エソダ・シュレスタさん 招聘プログラム

日本滞在スケジュール:10月17日~26日

共に「幸せ分かち合いムーブメント」を進めているネパールNGO・SAGUNとの関係をさらによいものにするため、これまで現地でお世話になっているSAGUN副代表エソダ・シュレスタさんを招聘します。「幸せ分かち合い」について、地震について、さらには専門である「ジェンダーの平等(註1)と社会的包摶(註2)」について学び、ネパールの女性たちの状況を知るとともに、日本社会における女性たちの状況についても考える機会としたいと思います。

エソダさんは、SAGUNの副代表でジェンダーの平等と社会的包摶の専門家です。2005年にフルブライト奨学金を得てアメリカに留学、紛争転換と平和構築で修士課程を修了。カナダやデンマークの国際NGO、デンマーク国際開発援助庁の

「人権と良い統治諮問委員会」などの活動を経て、現在はネパール政府都市開発省のプロジェクトに従事しています。家族は夫と20代の息子1人。日本大使館の秘書官を務めていたことがあります。日本文化にとても関心を持っています。



エソダ・シュレスタさん

10月25日(日)午後、ワークショップを企画しています。ぜひご参加ください。(詳しくは同封チラシ参照)

### ◆◆◆◆◆ 受け入れ先募集 ◆◆◆◆◆

ホームステイとホームビジットの受け入れ先を募集します。関心のある方は、事務局までお知らせください。

—地球の木事務局:045-228-1575—

\*ホームビジットとは、家庭にゲストを招く形の交流です。

註1:ジェンダーの平等

男女の違いによって、さまざまな機会、資産や利益の配分、サービスの提供における差別がない状態を言う。

註2:社会的包摶(ソーシャル・インクルージョン)

低所得者、女性などのような、社会から排除されている人々が誰であるかを明らかにし、資産、利益、サービスの提供などの機会が与えられるプロセス。



## 稻作改善活動

## ゆっくりでも学ぶことは多いはず



育苗のためトレーに土を詰める

7月、ラオスは雨季真只中の時期だ。雨季は、年に一度しかない、村人の食の中心である米作りに忙しい時期である。JVCでは稻作改善技術として、幼苗を1本ずつ植える手法(SRI)の普及を行っている。これは簡単に言うと、株当たりの本数を減らし、分けつ(註)の潜在性の高い若い苗を植えることで分けつおよび穗が増え収量が向上するというものである。

註:分けつ  
稻・麦などの根に近い茎の関節から枝分かれすること

## ●3村を重点村に絞る

稻は生き物であり、丁寧なフォローアップが必要なため、今年はアサポン郡の3村を重点村に絞り普及を進めている。ナノイ村は昨年からの実施者のいる村。ドンサン村は女性が活発で研修への女性の参加率の高い村。ファイヤン村は3村で一番遠い村で電気が通っておらず、これまでSRI普及はあまり進んでいなかつた村。しかし副村長が積極的で、参加を迷っている村に対して「とにかく試してみよう」と背中を押し、最初は5人しかいなかつた希望者が、研修の度みるみる増え17人となつた。それぞれ村の個性があり面白い。

## ●トレーでの苗づくり

今年は新たに、より頑健な苗を育苗するため「トレーでの苗作り」を導入した。村人の従来の手法は、水田の一角に棒で穴を作りその中に沢山の種を播き、苗取りの時は苗の塊ごと引っこ抜くという方法であった。通常、村と田圃は離れているため播いたら抜くまで何の手入れも

しない。しかし、トレーを使うことで家の近くに置いて水遣りなどの手入れができる、SRI用の頑健な苗を育てるだけでなく、苗の観察を通して育苗の重要性を学んでもらうこともできる。村ごとに、皆で一緒に土と研修で作った有機肥料をトレーに詰め、選別した種を播いた。この方法は従来に比べ手間がかかるので面倒がられるかと当初は心配したが、皆で集まって

ワイワイ土を詰めている姿は楽しそうで共同作業の良さを感じた。「水遣り」も心配したが、ある人は同じ村の他の村人の数日後に種を播いたため生育が遅く、これを挽回するため日に3度も水遣りしたとのことである。あるいは、緑々しいきれいな苗ができたのでJVCが教えた有機肥料を自分で作った人もあった。

## ●稻作改善活動を通して

「従来と違う方法」が受け入れられにくい村で精力的に実践されたにも関わらず、今年は20年に一度とも言われる雨不足で田植えが遅れ、残念ながら苗の多くは使えなくなってしまった。しかしこの活動を通して、共同作業や、稻の生育の観察と比較を通して村人の中に新たな発見や楽しみがあったのではないかと思う。そして「収量向上により村人の食糧確保を目指す」という稻作改善活動の基本的な目的ではなく、むしろより重要な、「新しいことを試してみること」「何かを比較して実証すること」といった村人の物事への見方、構え方への変容の一つになったように思う。こんな積み重ねにより、それぞれの場所に適した方法を自身で取捨選択、開拓してもらうことを目指したい。

これから雨が降り、この会報が読まれる頃には稻でいっぱいの水田が広がっていますように。  
(JVCラオス現地駐在員 渡久山舞)

渡久山さんは現地調整員として今年3月に赴任。青年海外協力隊ではケニアで農業支援の経験がある。ラオスでも持続的農業活動の担当。今年はこのSRIの普及に力を入れることのこと。



## カンボジア訪問(7月9日~14日)

クラフト担当スタッフの高橋さんと2人でカンボジアを訪問しました。目的は、秋のイベント、デポー販売のためのクラフト品の仕入れや手配をプノンペン市内で行ない、アン村で新しいデザインのスカーフを発注することです。そして、もうひとつの目的は、CWCCのプノンペンシェルターに今年度の支援金を渡すことでした。

## ●ピース・ハンディクラフト

ピース・ハンディクラフトでは、追加注文のために、預かってもらっている生地の在庫を確認しました。クラフト担当の新しいスタッフを連れてきたと紹介すると、事務所兼ショップの2階から4階にある工房を見学したらと案内してくれました。ピースは、現在、障害者など社会的弱者の救済を行っている省庁と連携して、聴力障害の人たち(男性+女性)を多く雇用しています。3階のフロアでは、20名ほどの人たちが魚の餌袋を再利用したリサイクルバッグの注文を仕上げていました。ピースでは、最初は、安い材料で製作を行ないながら技術を磨き、熟練していくとシルクの製作を行なうようになります。地球の木の注文を引き受けるワーカーは、ピースでもトップクラスの技術を持つ人たち

だそうです。スタッフたちは簡単な手話ができます。私たちもクメール語の手話を習い、手話でいざつしました。

**ピース・ハンディクラフト (Peace Handicraft)** ——  
カンボジアのプノンペンにある、地雷やポリオ、交通事故などでハンディキャップを持った人たちの工房です。生産者の人たちが差別や偏見に負けず、社会の中で暮らしていくよう、シルク製品などの生産・販売をしています。地球の木はオリジナルのシルクバッグやカードケースなどの生産を依頼しています。

## ●CWCCシェルター

昨年の地球の木の支援金は、裁縫教室の材料な



庶民の台所となっている野菜市場

ど、主に職業訓練プログラムに使ったということです。新しいことでは、カフェトレーニングと並行して、英語のクラスも新しく始まりました。カフェトレーニングは訓練生たちにも人気のあるコースですが、カフェで働くには、英語が不可欠だからです。私たちがトレーニングルームを訪れるとき、研修の一環として、エスプレッソやカプチーノと焼きたてのカップケーキをごちそうしてくれました。  
(クラフトチーム 筒井由紀子)



妻から織物技術を習ったという地元の男性(アン村)

れている家庭が多く見られます。今回訪問したのは20代の夫婦の方で、群青色の糸を使って、美しい紺の生地を織っていました。結婚後、夫は妻から織物の技術を習い、今は2人で協力して生計を立てているとのことでした。しかし、妻はしばらくしたら収入の良い縫製工場で働く予定だとのことでした。

カンボジアの伝統である自然染色の紺の生産地を訪れ、生産者の方々が一つひとつ時間をかけて、丁寧に作っていらっしゃることを改めて実感しました。また、より良い収入を求めて、都会の工場で働くことを選択する人もいるという現実を見て、フェアトレード活動を行うことの意義を感じています。

アン村ナチュラルコレクションの新作スカーフは、今秋に入荷予定です。また、今回の訪問で買い付けを行ったシルクの雑貨や小物も、デポーやイベントで販売する予定ですので、是非この機会に、カンボジアやそこに暮らす人々に思いを馳せていただけたら幸いです。  
(クラフトチーム 高橋伶奈)



ココナツから生まれた色(右側が筆者)

## ●フェアトレードの意義を実感

続いて、日が暮れた後に、機織りの仕事をしている家をいくつか訪れました。アン村は、シルク織物生産地として有名なため、少し歩くと、庭に織り機が置か

# 非戦の声を!! —「戦後70年」私たちの望むこと—

## 海外の現実を知るNGOだからこそ

2015年8月は、戦後70年です。国会では、安全保障関連法案が衆議院を通過し、その審議は、参議院へと移りました。酷暑の中、多くの市民たちが、国会前に集まり、日本の安全保障の大きな方針転換に対して反対の声を挙げています。地球の木も、世界各地の現場で国際協力活動・交流活動を行うNGOの有志のネットワーク「NGO非戦ネット」の賛同団体となりました。9.11以降、世界を席巻した対テロ戦争と「対テロ」の名の下に、多くの一般市民が犠牲になりました。「NGO非戦ネット」は、このような武行使やそれに伴う日本の有事法制に反対の声を挙げ、2002年に作ったネットワークです。

今また、現在の国際情勢と日本で急速に進められている戦争に加担する政策や法整備の動きに対して、新たにNGOによる「非戦」の動きを作りたいこうとしています。戦争が起るカラクリや、人間として当たり前の権利を奪われた人々の絶望と反発がテロの温床となっている現実。そして人々が貧困や飢えから解放されなければ、平和で安全な社会は実現しないということ。それらを目の当たりにしているNGOだからこそ、発信できる声を市民に届けていきます。そして日本の各層に広



がる戦争法制に反対する動きと力を合わせていきます。

## KOREAこどもキャンペーンでも

7月24日には、地球の木が呼びかけ団体として参加するKOREAこどもキャンペーンでも戦後70年に寄せる市民からの声明「今こそ、歴史を真摯に受け止め、東北アジアの市民と平和を作っていくましょう」を発表しました。

KOREAこどもキャンペーンは、北朝鮮の子どもたちへの人道支援や韓国、中国、在日コリアンの子どもたちとの出会いと交流の場づくりを行なう絵画展の開催など、東北アジアの平和と市民同士の信頼醸成に結びつくような交流・協力活動を継続してきました。隣国との

関係は、昨今、決して良いとは言えない状態が続いています。お互いにネガティブな情報であふれ、実際の人々の姿が伝わりにくいこの地域で、市民と市民の心をつなぎ、現地の人たちの声を届けるのはNGOとして大切な役目でもあると考えます。20年余、この間に出会った日本、韓国、北朝鮮、中国、在日コリアンの人たちと共に、手を携えながら、武力ではなく、対話を重ねることによる平和構築を希求する「輪」を広げていきたいと思います。

(事務局長 筒井由紀子)

## 「もったいない」を掘り起こそう 国際協力や東北支援に!!

もったいないキャンペーン報告

その1

「ネー、ねえ、これってプラチナじゃない?」「これは! 純金指輪かしら」「本当にありがたいわね」。このうれしい声が飛び交ったのは、さる6月30日のこと。地球の木事務所から約300メートル先にある横浜・平沼記念体育館の一室を借りて繰り広げられた“お宝発掘ボランティア”による開封作業のひとコマ。段ボール箱3つから机に並べられた封筒の山は約



楽しいお宝発掘

700通。書き損じの年賀はがきをはじめ、昭和時代からの未使用はがきや普通切手に混じって、シート束の記念切手。また、マニアなら欲しくなるだろう個性豊かなテレホンカードに各種のギフト券など、紙質、字体もその時代を映し出している。そして、今回は初めて「家庭で眠っている不要の他の物」の供出も呼び掛けたところ、それぞれに思い出が詰まつた品物が寄せられました。この一連のご協力をいただいたのは、県内の生活クラブ生協と福祉クラブ生協の人たち。いわば、「もったいない運動」をヒントにした地球の木の新しい資金活動がヒットした瞬間です。

舞台は開封場面にリターン。机に並べ、一つひとつの封筒に何が入っているかをメモし、それを3台のパソコンに入力。また、素人目でも高価な物は別枠にして保管。後日、専門業者らに鑑定してもらうことを確認しながらの流れ作業でした。しかし、この日は10人が実働7時間でも処理しきれず、まだまだ作業は続きます。気になる金額は後日のお楽しみに…。この新資金活動は皆さんに支えられて今後も継続していくことで、どうぞ格段のご協力をよろしくお願いいたします。

(理事 野崎俊一)

## スポーツで子ども支援

東日本大震災の後、私は体育館で避難所生活を送りながら、親族の安否確認、捜索、我が家への手掛けかりを探し求め必死でした。そんな時、地元の人たちが早く前を見て進めるようにとNPOが立ち上げられ、活動に参加。瓦礫撤去や炊き出し、支援物資の配布などを行っている時に、地球の木の方々と出会いました。

活動をしていく中で、本業であるスポーツトレーナーとしてできることが無いのかと考えるようになりました。避難所生活のこと、ケア施設の指導員の方々が朝の体操を行っている時でした。見よう見まねで始めた一人から隣の人に、またその隣へと体操の輪が広がり、気が付くと指導員を中心に皆が体操を行っていました。終わると自然と拍手が起り、その光景に心が温かくなりました。また瓦礫の中でも子どもたちは、何かを見つけ、それをおもちゃに楽しそうに遊んでいるのを見て、私にできることがあると確信していました。

しかし私にも生活があり、4年もの月日が過ぎてしまいました。そんな中、生徒数の減った小学校が次々に廃校になり、子どもたちは大きな小学校に集められ、通学距離が長いからとバスでの送り迎えになりました。また遊び場だった校庭、広場には仮設住宅が建ち、地盤沈下改良、さらにかさ上げのため



仮設住宅が建ち子どもたちは公園で遊べない

の土が山のように盛られ、復興住宅建設のため大型車両が行き交っています。危険なため立ち入り禁止になり、その結果、子どもたちの著しい体力低下や生活習慣病が増えている現状を知り、早急に行動を起こさなければと思い、地球の木の総会で思いをぶつけさせていただきました。

まず第一弾として、小学生を対象に「運動教室」を月1回位のペースで行い、体を動かす楽しさや、競争で勝ち負けして、喜んだり悔しがったりする経験、自分が変わっていく面白さを子どもたちに感じてもらいたいと思います。ゆくゆくは、週1回位、子どもだけでなくその両親、仮設住宅の人々を始め、被災地全域で行い、参加した子どもたちの中からオリンピックに出場して活躍できる選手を輩出できるようにしていきたいと思っています。

地球の木の皆さんのお力により、震災前には考えられなかつた経験をさせていただいている。これからもより一層のご支援をお願いいたします。 (TreeSeed元代表 高木裕治)

### 新理事登場

野崎 俊一



古希も過ぎてからやっとホンマ物の人生目標と生きがいを見つけました。その名は「地球の木」。ネパールスタディツアーに参加したことで目覚めたのです。10年知るのが遅かった。でも、Never too old。生涯現役を目指し、アタマと体力アップ

を図り、「ハッパと動き、使い勝手の良いヒト」となるよう頑張ります。前職は新聞記者。定年前の10年間は女子大学講師も兼任。専攻は持続可能な社会を目指すスウェーデンの生涯教育。趣味はイラストの人相と落差あるけど、「茶の湯」。一応、50年の茶歴。これにテニスあたぐ。もう一つが食い物にメがない。懐石料理から餃子は皮から作ります。味は保証付き?で、<地球の木の料理ボランティア>の資格はありと自負。ご教示あねがいします。

### 活動日誌 (6月~8月 抜粋)

#### 6月

- 10~11日 デポー展示会(みたけ台)
- 13日 出前講座(鎌倉女学院高校)
- 17日 第1回理事会
- 17日 デポー展示会(東戸塚)
- 24~25日 デポー展示会(日限山)
- 29~7月6日 ネパール大地震被災地調査

#### 7月

- 1日 ネパール報告会参加  
(ふれあい交流祭り 6月30日~7月2日)
- 3日 デポー展示会(ほんもく)
- 4日 出前講座(真光寺中学校)
- 9~14日 カンボジア訪問
- 10日 國際理解教育受入(アレセイア湘南高校)
- 11日 ネパール大地震被災者支援報告会  
(なが区民活動センター)

14日 出前講座(聖ドミニコ学園高校)

16日 出前講座(横須賀明光高校)

15~16日 デポー展示会(たかつ)

21日 ネパール大地震被災者支援報告会  
(東戸塚 お茶の間楽交)

26日 ネパール大地震被災者支援報告会  
(鶴見国際交流ラウンジ)

30日 第2回理事会

#### 8月

- 2日 ネパール大地震被災者支援報告会  
(港南台国際協力まつり)
- 25日 ネパール大地震被災者支援報告会  
(神奈川ネットワーク運動)
- 29日 ネパール大地震被災者支援報告会  
(WE21相模原)

## 2016年版 「地球の木」カレンダーができました！

- ・カレンダータイトル：『いのちいっぽい』
- ・写真家：竹沢うるま
- ・サイズ：壁掛け：28cm×38.5cm( 使用時 56cm×38.5cm)  
卓上：14.5cm×17.8cm×7.5cm
- ・制作元：日本国際ボランティアセンター
- ・価格：壁掛け：1,600円(税込)  
卓上：1,300円(税込)



今年は、竹沢うるま氏の写真に、日本の代表的詩人・谷川俊太郎氏の書き下ろしの言葉が添えられています！



2010年7月に取得した認定NPO法人格が2015年7月15日で失効するため、今年の1月頃から準備を進め、2015年7月16日から2020年7月15日までの5年間について、認定NPO格を取得することができました。

認定NPO法人となることにより、会員をはじめとする支援者の皆さまのご寄付が所得税等の寄付金

控除の対象となり、所得税、住民税を合わせると、寄付金額の最大50%が税金からもどってくることになります。ぜひ、この制度を利用し、今後とも地球の木をサポートしていただきますようお願いいたします。

※地球の木ではサポート会員の会費も寄付金控除の対象となります。サポート会員の方で会費の領収書が必要な方は、地球の木事務局までご連絡ください。

## 認定NPO法人格を継続して取得しました

### ◆デポー展示会

9~12月

- 9月 8・9日 緑園
- 9月 24・25日 つつじが丘
- 10月 17日 東戸塚
- 11月 2・3日 つなしま
- 12月 14・15日 ちがさき

### ◆第42回藤沢市民まつり —komorebi garden秋葉台

9月26日(土)  
午前10時～午後4時  
秋葉台公園(秋葉台体育館周辺)  
活動紹介、クラフト販売で参加

### ◆第11回ひらつか市民活動センターまつり

9月27日(日)  
ひらつか市民活動センター  
活動紹介、  
クラフト販売で参加

## イベント情報

### ◆グローバルフェスタJAPAN2015

10月3・4日(土日) お台場・センタープロムナード公園  
活動紹介、クラフト販売で参加

### ◆よこはま国際フェスタ2015

10月10・11日(土日) 象の鼻パーク  
活動紹介、クラフト販売で参加

### ◆中区民祭り

ハローよこはま2015

10月11日(日) 活動紹介の展示

### ◆ネパール大地震被災者支援報告会

10月29日(木) 13:30～15:00 ひらつか市民活動センター

10月

11月

### ◆かまくら国際交流フェスティバル

11月1日(日) 鎌倉 高徳院(鎌倉大仏)  
活動紹介、クラフト販売、コーヒー販売で参加

### ◆東日本大震災・復興支援まつり

11月7日(土) 山下公園  
活動紹介、クラフト販売で参加

### ◆オルタ館フェスタ

11月14日(土) オルタナティブ生活館  
活動紹介、クラフト販売で参加

### ◆磯子国際交流フェスティバル

11月8日(日) 磯子区役所口ビー  
ワークショップ(ネパールわくわく  
ワークショップ)、クラフト販売で参加

### ◆災害支援フォーラム inかながわ

11月22日(日) 14:30～16:30  
かながわ県民センターホール



特定非営利活動法人  
**地球の木**



今年の夏は戦後70年間で一番暑(熱)い夏だったかも。迷走する安倍政権。広がる抗議デモ。国権vs民権の闘いの中、会報64号の編集作業も熱かった。  
(KN.)